

タイトル「**2023年度大学院危機管理学研究科(公開用)**」、フォルダ「**大学院危機管理学研究科**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー			
科目名	危機管理学研究演習Ⅱ		
担当教員	上野 幸彦		
対象学年	1年,2年	開講学期	後期
曜日・時限	金 4		
講義室		単位区分	必
授業形態	演習	単位数	1
科目大分類	統合演習		
科目中分類	Mシリーズ		
科目小分類	4統合・演習		
科目の位置付け（開発能力）	■DPコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP2 [学識・専門技能]災害、テロ、国際紛争等、複雑化した現代の様々な危機を分析し解決するための、法学、政治学、国際関係学等の社会科学の知見を統合した応用的な知識と技能（25%） DP3 [思考力・判断力・表現力] 客観的な情報やデータをもとに論理的に考察し説得的に表現する力（50%） DP4 [主体性・多様性・協働性] 多様な価値観や立場を尊重しつつ、自らの明確な考えをもとに、他者とコミュニケーションを確立する能力（25%）		
教員の実務経験	特になし		
成績ターゲット区分			
科目概要・キーワード	危機管理学とその基礎となる法学に関する研究活動を実践するために、必要な社会科学的研究手法を学び、学生が自らテーマを設定し、論文を執筆し、成果を発表するための指導を行う。本演習では、危機管理学、法学に関する研究論文の執筆にあたっての、論文のアウトライン策定と考察・叙述、ディスカッションの活性化、プレゼンテーションの実質化を含む基礎的研究プロセスを扱う。これらの研究プロセスを通じて、学識・専門技能に加え、判断力・思考力・表現力、更には主体性・計画性・協働性等の汎用的能力を開発することを目的とする。 授業形態は演習形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。 （キーワード）・セキュリティ・ロー(Security Law)、比較刑法		
授業の趣旨	■副題 社会の安全化にシフトする刑法 ■授業の目的 英語の文献を読みながら、その内容を理解すると同時に、欧米の論文のスタイルと論証を一つのモデルとして参考にしながら、自らの研究と論文作成の目的のために応用可能な能力を養成します。 ■授業のポイント ドイツにおける比較刑法の代表的研究者と知られる Ulrich Sieber教授の著作"The New Architecture of Security Law—Crime Control in the Global Risk Society—"をテキストとして読みながら、比較刑法の観点からグローバルなリスク社会の下での刑事的なコントロールについて考察します。比較法の研究手法について学び、日本の状況について客観的・批判的な観点から分析し、課題と展望について考える契機としながら、研究能力の向上を目指します。この授業を通じて、比較法研究という手法について理解し、自ら研究を行うことができます。		
総合到達目標	■英語文献を読解し、欧米の論文のスタイルについて知ることを通じて、自らの研究能力の向上を図る。		
成績評価方法	■授業内での翻訳ペーパー：10回÷受講者数（40%） （評価の観点）授業内容を踏まえ、与えられた設問に対して、的確かつ論理的に答えているかどうかを評価します。 適用ルーブリック：E1：30%、F1：10%、F2：10%、H1：10%、H2：10%、I1：15%、I3：15% （フィードバックの方法）授業中に説明します。 ■レポート：2回（60%） （評価の観点）授業内容を踏まえ、テーマに対して的確に問題点を把握し、かつ合理的な課題解決が図られているかどうかを評価します。 適用ルーブリック：E1：30%、F1：10%、F2：10%、H1：10%、H2：10%、I1：15%、I3：15% （フィードバックの方法）授業中に説明します。		
履修条件	特になし		
履修上の注意点	特になし		
授業内容	回	内容	
	1	①授業テーマ ガイダンス（全体テーマおよび進め方の説明） ②授業概要 授業のテーマや内容、スケジュール、評価方法と研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする（適用ルーブリックE1：40%、F1：20%、I1：20%、I3：20%）。 ③予習（120分） テキストとする論文 Ulrich Sieber, "The New Architecture of Security Law—Crime Control in the Global Risk Society—"を準備する。 ④復習（120分） 授業の目的について確認する。	

2	①授業テーマ グローバルなリスク社会と刑法・犯罪のコントロール ②授業概要 この授業で使用するテキストの著者であるUlrich Sieberと彼が取り組んでいる比較刑法の研究について紹介し、テキストの位置づけについて説明を行います（適用ループリッカーE1：40%，F1：10%，H1：10%，I1：20%，I3：20%）。 ③予習（120分） テキスト全体を一読する。 ④復習（120分） テキストのテーマについて確認する。
3	①授業テーマ Ⅰ 危険社会の安全理論 ②授業概要 テキストⅠを訳出して、伝統的な刑法とリスク社会における安全理論の下での刑法の変化について、応報から予防へ、安全理論、敵味方刑法の論点についてディスカッションし、問題点を明らかにします（適用ループリッカーE1：30%，F1：10%，F2：10%，H1：10%，H2：10%，I1：15%，I3：15%）。今日における刑法の変化の特徴について理解し、説明することができます。 ③予習（120分） テキストのⅠの部分を事前に訳出する。 ④復習（120分） 刑法の変化についてまとめる。
4	①授業テーマ ⅡA 予防刑法の台頭 ②授業概要 テキストⅡAを訳出し、実体法と手続法とのそれぞれの領域でどのように予防の側面が反映されるようになっているのかについて理解します（適用ループリッカーE1：30%，F1：10%，F2：10%，H1：10%，H2：10%，I1：15%，I3：15%）。予防刑法の特徴について理解し、説明することができます。 ③予習（120分） テキストⅡAを事前に訳出する。 ④復習（120分） 予防刑法への重点の移行がどのような刑法学にどのような変化をもたらしているのかまとめる。
5	①授業テーマ 予防刑法と日本の刑事立法 ②授業概要 Ulrich Sieberによる議論に基づいて、日本における近時の刑事立法について検討し、その傾向と特徴について分析します（適用ループリッカーE1：30%，F1：10%，F2：10%，H1：10%，H2：10%，I1：15%，I3：15%）。ドイツの場合と日本の状況について比較対照させながら、特徴を理解し、説明することができます。 ③予習（120分） テキストⅡAを参考にしながら、日本の状況と比較する。 ④復習（120分） 日独の比較に基づいて特徴についてまとめる。
6	①授業テーマ ⅡB 刑法以外における安全制度の拡大（1） ②授業概要 テキストⅡBを訳出し、刑法以外の分野における安全・予防制度の中で、犯罪予防的措置、行政上の制裁等について概観します（適用ループリッカーE1：30%，F1：10%，F2：10%，H1：10%，H2：10%，I1：15%，I3：15%）。安全構築のスキームの中で刑法のかかわりについて把握し、その役割について説明することができます。 ③予習（120分） テキストⅡB 1～3を事前に訳出する。 ④復習（120分） 安全構築のための多様な方法についてまとめる。
7	①授業テーマ ⅡB 刑法以外における安全制度の拡大（2） ②授業概要 テキストⅡB 4～7の部分を訳出し、刑法以外の分野における安全・予防制度の中で、情報の収集・調達、特定の緊急事態に関する特則、民間における規範体系について概観し、法制度との関係について理解します（適用ループリッカーE1：30%，F1：10%，F2：10%，H1：10%，H2：10%，I1：15%，I3：15%）。 ③予習（120分） テキストⅡB 4～7を事前に訳出する。 ④復習（120分） ハードな国家法システムとそれ以外のソフト・ローの安全法における機能についてまとめる。
8	①授業テーマ ⅢA 多くの犯罪抑制システムとその多様性 ②授業概要 テキストⅢA・Bの部分を訳出し、安全法の台頭と発展に伴う犯罪抑制システムの多様化、事前の危険防止のための予防刑法への転換について理解します（適用ループリッカーE1：30%，F1：10%，F2：10%，H1：10%，H2：10%，I1：15%，I3：15%）。予防刑法の変化について理解し、説明することができます。 ③予習（120分） テキストⅢA・Bの部分を事前に訳出する。 ④復習（120分） 予防刑法と伝統的な刑法とを対照させて、従来の刑法の変化について分析する。
9	①授業テーマ ⅢC 安全性とその実効性の強化 ②授業概要 テキストⅢCの部分を訳出し、犯罪予防へのシフトの特徴について理解します（適用ループリッカーE1：30%，F1：10%，F2：10%，H1：10%，H2：10%，I1：15%，I3：15%）。予防による安全の確保と刑法の変容について理解し、その背景や特徴について説明することができます。 ③予習（120分） テキストⅢCの部分を事前に訳出する。 ④復習（120分） 事後的な犯罪への対応と事前的な犯罪の抑止とを対比させながら、刑法の変容について分析する。

10	①授業テーマ ⅢD 市民的自由の喪失 ②授業概要 テキストⅢDの部分を訳出し、安全性の強化に伴う市民的自由の弱体化というテーマで、安全法の帰結を概観しながら、個人の自由に対する介入、情報化社会による監視の促進、憲法的保障の縮減等の論点について検討します（適用ループリッカーE1：30%，F1：10%，F2：10%，H1：10%，H2：10%，I1：15%，I3：15%）。予防刑法への傾斜が自由に対する介入拡大を招いている側面について着目し、安全の追求と自由の保障との最適化を図る重要性について理解し、説明することができます。 ③予習（120分） テキストⅢDの部分を事前に訳出する。 ④復習（120分） 安全と予防の重視の弊害について分析し、自由・権利保障との調和について考える。
11	①授業テーマ ⅢE 総括的評価 ②授業概要 テキストⅢDの部分を訳出し、新たな安全構造に関する総括的な分析とその評価について検討します（適用ループリッカーE1：30%，F1：10%，F2：10%，H1：10%，H2：10%，I1：15%，I3：15%）。安全法の枠組みについて理解し、その中での刑法との関係について説明することができます。 ③予習（120分） テキストⅢDの部分を事前に訳出する。 ④復習（120分） 犯罪の事前コントロールを重視する安全法と刑法の対応について整理する。
12	①授業テーマ ⅣA 学際的な統合的研究の必要性 ②授業概要 テキストⅣAの部分を訳出し、安全法の研究手法について、包括的な理論化のための統合的研究の必要性について理解します（適用ループリッカーE1：30%，F1：10%，F2：10%，H1：10%，H2：10%，I1：15%，I3：15%）。包括的な安全法理論を構築するために、統合的な研究の重要性について理解し、今後の理論研究の方向について説明することができます。 ③予習（120分） テキストⅣAの部分を事前に訳出する。 ④復習（120分） 統合的な研究方法について考える。
13	①授業テーマ ⅣB 市民的自由が補完された安全構造の必要性 ②授業概要 テキストⅣBの部分を訳出し、予防と安全の推進化が市民的自由・権利の保護と調和的であることの必要性について検討します（適用ループリッカーE1：30%，F1：10%，F2：10%，H1：10%，H2：10%，I1：15%，I3：15%）。安全法研究の理論的な指標について理解し、説明することができます。 ③予習（120分） テキストⅣBの部分を事前に訳出する。 ④復習（120分） 安全法研究における重要な目的について整理する。
14	①授業テーマ ウルリッヒ・ズィーバーの主張について ②授業概要 テキスト全体を振り返り、Ulrich Sieberの主張について検討します（適用ループリッカーE1：30%，F1：10%，F2：10%，H1：10%，H2：10%，I1：15%，I3：15%）。彼の見解の骨子について理解し、そのポイントと特徴について説明することができます。 ③予習（120分） テキスト全体の訳を確認する。 ④復習（120分） Ulrich Sieberの見解についてまとめ、その特徴について指摘する。
15	①授業テーマ 日本の現状との比較 ②授業概要 テキストの内容に基づいて、日本との比較検討を行い、安全法の観点から日本の状況について分析と評価を行います（適用ループリッカーE1：30%，F1：10%，F2：10%，H1：10%，H2：10%，I1：15%，I3：15%）。 ③予習（120分） テキストの論述内容と、日本の場合とについて相違点を整理する。 ④復習（120分） 授業の内容を振り返り、今後の研究方針について考える。
関連科目	犯罪・刑事司法特講（R5MR0022），社会安全・治安維持特講（R5MR0021），テロリズム対策特講（R5MR0023）
教科書	Ulrich Sieber, "The New Architecture of Security Law—Crime Control in the Global Risk Society—"
参考書・参考URL	
連絡先・オフィスアワー	開講時にお知らせします。
研究比率	法学：80%，危機管理学：20%

